

## 市長記者会見記録

日時：2018年9月18日（火）14時～14時39分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成30年度（第47回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について（市民文化局）

### <内容>

#### 《平成30年度（第47回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について》

【司会】 それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は「平成30年度（第47回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について」となっております。

それでは、市長からご説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、平成30年度川崎市文化賞等の受賞者が決まりましたので、発表させていただきます。

本賞は、昭和47年度の第1回以来、本年度で47回目を迎えます。本年度は個人・団体合わせて22候補の中から、川崎市文化賞等選考委員会において審議をしていただき、資料表紙にありますように3名3団体の方々の受賞を決定いたしました。各賞の贈呈式は11月2日（金曜日）、川崎市国際交流センターで午後2時から行います。

次に、本年度受賞される方々についてご説明させていただきます。資料の1ページをお開き願います。本年度の各賞受賞者の方々の一覧でございます。

次に、個々の受賞者につきまして、その功績の概要を申し上げます。

初めに文化賞でございます。この賞は教育・学術・芸術・文化活動の各分野で発展に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

2ページ目の法政大学第二高等学校物理部様でございます。JAXAなどがバックアップしている「缶サット甲子園」にこれまで8回、全国大会出場を果たされ、準優勝2回、優勝3回という成績を残していらっしゃいます。

4ページの三輪修三様でございますが、川崎の郷土史を40年以上にわたり研究なされ、数多くの著書が出版されるとともに、かわさき市民アカデミーなどで講師を務めるなど、長きにわたり川崎の郷土史を市民に伝えてこられました。

続きまして、社会功労賞でございます。この賞は、社会福祉・保健衛生・産業経済・地域振興の各分野で発展に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

6ページの嶋元様でございますけれども、川崎市薬剤師会会長としてお薬手帳の普

及・促進などに尽力され、市民の健康保持・健康増進に貢献されています。また、学校薬剤師として、小中高生に薬の正しい知識の普及に努めていらっしゃいます。

続きまして、スポーツ賞でございます。この賞は、国際大会等で優秀な成績を残された個人または団体、並びにスポーツの普及・振興に尽力された個人または団体に贈呈するものです。

8ページの法政大学第二高等学校ハンドボール部様でございますが、これまでにインターハイ20回出場、全国選抜大会18回出場と強豪校として歩まれてきました。また、平成29年には選抜大会、インターハイ、国対に優勝する全国3冠という偉業をなし遂げられました。

続きまして、アゼリア輝賞でございます。この賞は、文化・芸術の各分野において現在活躍中の若年層及び中堅層で、さらに今後の活躍が特に期待される個人または団体に贈呈するものです。

10ページの大間々昂様でございますが、洗足学園音楽大学にて作曲などを学ばれ、ご卒業後は作曲家として映像音楽制作を中心に活動なさっています。現在も数々の話題作を手がけられ、今後さらなる活躍が期待されています。

12ページの特定非営利活動法人カワサキミュージックキャスト様でございますが、本市の「音楽のまちづくり」に共感され、創設されてから今年で10年目を迎えられました。本市を拠点として、数多くの音楽イベントの開催に関わり、アーティストへの活動場所の提供、地元アーティストの育成に尽力するなど、音楽を介した地域社会づくりに貢献されるなど、今後も一層の活躍が期待されています。

以上で説明を終わらせていただきます。

**【司会】** それでは、ただいまご説明いたしました平成30年度川崎市文化賞等の受賞者の決定についての質疑に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、お願いいたします。

**【幹事社】** よろしく申し上げます。

文化賞なんですけれども、晴れて受賞された方々に市長からかける祝福の言葉というのをいただきたいというのが1つと、あと、さまざまな分野から今回も選出されていますけれども、日本や世界に羽ばたく活躍をされている人がこの川崎市からどんどん生まれているということについて、その感想をお願いします。

**【市長】** 今回の受賞者の皆さんは、継続的にこれまで取り組まれてきた方々が多くて、嶋さん、三輪さんは個人的にもずっと継続的な取り組みと、あるいは法政二高も

そうですけれども、1年間の短期間というよりも、先輩のころから脈々とずっと続いてきた歴史というのがあって、今こういうふうな受賞されたということ、関係者も含めて、歴史的にも感慨深いのではないかなと思いますし、また、そういう活動をやり続けてくださったことというのは私たち川崎の宝でありますし、そのことを多く市民の皆さんに知っていただくことはとても大事なことだと思います。この受賞を機に、さらに皆さん、ご活躍いただきたいなと思っています。

それから、次々とそういう方が出ていることについて、150万都市という規模だけでなく、多彩な才能を持っておられる方たちがこんなにもいるということは、ちょっと繰り返しになりますけれども、本市の宝でありますし、川崎の宝でありますけれども、今おっしゃっていただいたように、日本の宝、世界の宝となるような、そういうご活躍をこれからも是非していただきたいなと思っています。

【幹事社】 ありがとうございます。何かございますか。

【幹事社】 後で事務局に聞けばいい話ですけれども、法政二高の物理部の「缶サット」というのはちょっとイメージが湧かないんですけど、ごく簡単に「缶サット」を説明していただけますか。

【市長】 私から。「缶サット甲子園」というのは、高校生が自作した空き缶サイズの模擬人工衛星を打ち上げて、上空での放出、降下、着地の過程を通じて技術力・創造力を競う競技大会になっていまして、ちょっと詳しくなりますけれども、従来の競技会のように定められた技能を競うだけでなく、生徒自らがミッションを設定して、その達成に向けて生徒自身が主体的に取り組む過程を、幾つかに過程が分かれているらしいんですが、ミッション概要資料、事前プレゼン、実競技、事後プレゼンの4つによって評価されて、いかにそれを確実に実現できるかを競い合うということでありませう。

日本は科学技術創造立国というのを掲げている中でも、理科離れが進んでいるという中で、こういった実験とか実技、実経験というんですかね、こういうものを競い合うという非常に貴重な大会だと聞いております。そこで繰り返し優秀な成績をおさめているということで、審査会としてもそういった、何て言うんでしょうかね、スポーツだけでなく、文化・科学技術のところにも目を当てたんだというふうに聞き及んでおります。

【幹事社】 これ、人工衛星って軌道に乗せるわけじゃないんですよね。ロケットといえば、発射するんですかね。模擬、途中まで。

【市民文化振興室担当課長】 模擬のロケットみたいなので打ち上げるということであ

す。

【幹事社】 途中まで打ち上げて、人工衛星を打ち上げているときの想定を。

【市民文化振興室担当課長】 そうですね。打ち上げて、人工衛星自体はパラシュートで下に落下してくるということです。

【幹事社】 わかりました。あと、各社、質問があればどうぞ自由に。

【記者】 ぱっと過去の受賞者の数を見ると、今年は過去10年の間では一番数としては少ないのかなという印象もあるんですが、先ほど候補22というふうにおっしゃいましたけれども、候補自体が少なかったのか、選ばれた方は結果的に少なくなったのか、その辺の数のことで伺えればと思うんですが。

【市長】 数は毎年ばらつきがあるということですので、かつ、何人という確定した数字で毎年出すということを決めていないので、ふさわしいところまで行かなければ少ないという年もあるので、かなり変動はあるようです。今年は特に多い少ないということではないと思いますが、受賞者の数としては今回ちょっと少ないですね。

【記者】 そうですね。候補が少なかったから少なかったのか、要するに基準に達する方が結果的に少なかったということなんだと思うんですが、先ほどの質問とちょっと相反するのかもしれないですが、結果的に少なかったことについてはどういうふう感じておられますか。特にそれは、まあ、そういう年もあるかなという感じでしょうか。

【市長】 そうですね。川崎市の文化賞等というのはやっぱりそれなりのレベルが担保されていないと、過去の受賞者の例を見ていただきますと、それに値するなという方ではないと、なかなか難しいということだと思います。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

【幹事社】 ほか、ありますでしょうか。よろしいですか。じゃ。

【司会】 それでは、本件につきましては終了いたします。ここで関係理事者が退席をいたします。

#### 《動物愛護施策について》

【司会】 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、改めて幹事社様、よろしくをお願いいたします。

【幹事社】 引き続きよろしくお願ひします。

昨日、幸区役所で動物愛護フェアが開催されて、市長も動物愛護賞の表彰で参加されたと思います。この催しは平成4年に始まって、もう30回近くやっておりまして、

毎年開かれていて、川崎市は動物愛護というものにすごく力を入れておられるような印象を受けます。来年2月には動物愛護センターも移転して開業するという事なども控えておまして、市長は市の動物愛護意識の醸成についてどのように考えておられるかというのをお聞きしたいです。

【市長】 よく動物愛護の話になりますと、犬、猫の殺処分の数というのが常に焦点になると思うんですが、川崎はこれまでも殺処分ゼロを継続してきたというのはありますけれども、それは結果としてのことで、それに至る過程というのは、どこの自治体でもそうかもしれませんが、特に感じますのは、川崎はボランティアの方が、動物愛護団体の方たちの個人、団体の皆さんの大変なご協力をいただいている、そういう方々のご協力があって、そういった結果に導かれているんだと思います。

そういった意味で、行政のみならず、市民の皆さんと一緒にやってこの動物愛護に長年にわたり取り組んできた結果が、今、どこの自治体からも「川崎頑張ってるね」と言われる、そういう結果になっているんだと思います。

ですから、そういう意味では、新しく動物愛護センター、来年の2月には竣工しますけれども、今までの動物愛護事業、施策というのは、昔の言い方で言うと、捕獲してという考え方から、そういうのじゃなくて、今度の愛護センターは、命について学ぶ、それからつなぐ、守るというのを1つのキーワードにしていますので、こういうことが一層市民の皆さんに発信していける、そして共有できるような場でありたいなと思っていますので、そういう意味では、引き続き市民の皆さんとのいい拠点と、それに基づく事業をこれからも頑張っていきたいと思っています。

#### 《風疹の流行について①》

【幹事社】 ありがとうございます。

もう1点、お尋ねしたいんですけれども、7月末から8月ごろから首都圏で風疹患者が増えていて、流行の兆しが見えていると。この川崎市でも、県のほうに聞いたんですけれども、9月2日までに13人の感染者が確認されていると。風疹は妊婦さんが早い段階で感染すると、先天性風疹症候群を引き起こして、胎児ですとか新生児に重い障害が出たりするということもあると聞いております。

免疫を持っていない30代～50代の男性が感染を広げているという現状もあるようです。市長もちょうど該当する年齢ですけれども、同世代ということで、その辺も含めて、積極的な予防接種につながるような呼び掛けとございますか、そういったものを1つお願いします。

【市長】 はい。まさに今、ご質問で言われた年齢層、性別のところはワクチンを接種していない、私はまさに当事者の1人ですけれども、私も接種を受けるべく、今、日程調整をしている最中でして、自分自身も受けますし、また、やっぱり自分というより、大切な周りの人たちを守る意味でもしっかりと接種をしていただくことが大事ですし、本市はそれをサポートする事業に取り組んでいますので、助成もしていますから、是非活用していただきたいというふうに思います。

【幹事社】 ありがとうございます。

#### 《市民ミュージアム企画展について》

【幹事社】 市長の主な日程を、今日もらったやつを見ると、市民ミュージアムの「さいとう・たかをゴルゴ13」に行かれるということで、毎回この市民ミュージアム（企画展）に行かれているんですか。

【市長】 結構、企画展は行っているものも多いですね。

【幹事社】 先日の会見で、ミュージアムの入場者が増えているというような話があったかに記憶していますけれども、さいとう・たかをさんの『ゴルゴ13』とかというのはなかなか指定管理者でないとできないような題材かなという気もしますけれども、こういう題材についてはどう思われますか。

【市長】 あまり知られていないかもしれませんが、市民ミュージアムって漫画のコレクションが日本でも指折りのストックがありまして、そういった意味では、映像もそうなんですけれども、漫画イラスト系のものも非常に多くて、そういう意味では川崎の市民ミュージアムらしい企画だとは思いますが、とても集客が予測できる企画展なので、とても期待しています。

【幹事社】 ご自身は『ゴルゴ13』とかどうですか。

【市長】 読みます。いえ、最近読んでいないですけど、好きですね。麻生副総理もお好きだというので、ご案内を出したらというふうにこの前……。

【幹事社】 来てもらったら集客につながりますね。幹事社からは以上です。各社、どうぞ。

#### 《風疹の流行について②》

【記者】 先ほどの風疹のお話なんですけど、受けるべく日程調整をしているというのは、これは検査ですか、予防接種ですか。

【市長】 予防接種です。

【記者】 免疫の検査は……。

【市長】 私自身も母子手帳を確認しまして、受けていない、ワクチンを接種してないと同時に、罹患していないということですので、間違いなく（抗体を）持っていないので、予防接種を受けるという形です。

【記者】 抗体検査をしたわけではない。

【市長】 ではないです。

【記者】 ただ、履歴から、これは受けたほうがいいと。

【市長】 はい。

【記者】 当然、補助制度の対象になるんですね、市長は。

【職員】 本市の風しん対策事業で予防接種の一部助成対象となる方は、川崎市に住民登録があり、本事業を利用したことのない方のうち、「妊娠を希望する女性」、「妊婦のパートナー」、「妊娠を希望する女性のパートナー」のいずれかの方です。この助成制度を利用する場合は、まずは無料の抗体検査を受けていただき、抗体価が十分でなかった場合に予防接種の一部助成を受けることができます。

**※本市職員の発言に誤りがあつたため発言を訂正しています。**

【市長】 対象じゃないそうです。

【記者】 なるほど。わかりました。先ほどもあつたように、この世代の男性というのは、私も含めてなんですけれども、エアポケットみたいに制度の狭間で免疫が不全の人が多い。今回、改めて調べてみて、自分がそういう状況だというのはずっとわからなかったということでしょうか。

【市長】 いや、今回というか、数か月前の話なんですけど、本市の健康安全研究所の岡部所長から風疹のレクを受けたことがあって、その時に、自分は対象というか、ワクチンを受けていないなということから、それを知つたということですので、最近になってすごく報道されるようになって、報道等でも結構わかりやすく報道されているので、かなり浸透してきたのではないかなと思うんですが、やはり自己負担があつたりということで二の足を踏んでおられる方もいるでしょうから、そういった意味でも、対象は限られてはおりますけれども、本市の場合は助成制度を持っているので、是非やってほしいなという思いです。

【記者】 多分同じように、自分でも知らないうちに、免疫がないことをそもそもご存じない方が多かつたり、実際、母子手帳をチェックできない状況にある方もいらつしゃると思うんですけれども、ご自身当事者として、今回新たに受けられるということですから、そもそも何が一番のハードルだなというふうに感じられたところがあつ

たりしたら、それを改善したいというようなことがもしお考えがあったりしたら教えてください。

【市長】 そもそも、私の世代を含めてですけれども、働き盛りの人たちって自分が健康だから、予防に関する意識というのは一番低下している年齢かなと思うんですね。歯科検診もそうなんですけれども、ゆえに本市では妊婦と一緒にファミリー全体で受けましょうねという何かのきっかけ、動機づけをしないと、自分の健康そのものに意識するという機会ってすごく少ないと思うんですよ。ですから、この際には是非ともキャンペーンじゃないですけれども、張って呼び掛ける、何となくみんな自分事としましょうという呼び掛けをしていく必要があるなど。そこは意識の問題が一番のハードルじゃないかなという思いはします。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

#### 《ふるさと納税について》

【記者】 ふるさと納税について、ふるさと納税の現況調査、総務省が発表して、実質的な住民税の流出額が最も高い自治体として川崎が確定いたしました。まず、確定してワースト、最も流出額が高いということについての率直な感想を一言お願いしたいんですが。

【市長】 ワーストとかって言われるとあれなんですけれども、影響額が一番大きい団体としては、私、ふるさと納税の本来持つ趣旨というのは、いい話だし、理解しているんですね。ですから、それはそれでいいんですけれども、過剰になり過ぎちゃって、本来の趣旨とかけ離れていることになっている実状があります。

私もこの前、どこの自治体かもわかりませんが、自転車欲しいからそっちのほうに寄付したみたいな話を言われて、明らかに物目当ての話になっていること自体が、ふるさと納税の趣旨から完全に逸脱していると思います。ですから、こういうことは非常に遺憾に思いますし、趣旨をねじ曲げてしまっている。このことに対して、今回、総務大臣からの通知が制度の改正の話があるというのは非常に歓迎していることです。

正しい制度運用をやっていただくというのが大事かなと思いますし、不交付団体ですから、影響が出るのはほんとうに致し方がないところではありますが、本市だけの話ではなく、日本全体としてこの制度を適正に運用していただくということがとても大事かなと思っています。

【記者】 それと、現在、総務省の行おうとしていることが、豪華な返礼品に対する見直しということで、ふるさと納税の制度から除外しますよというところが大きく取



り上げられています。もう1つの見方としては、寄付する金額と自治体数に上限がないという、この部分について市長はどのように思われますか。

【市長】 これは、ふるさと納税に関する見直しのところで、総務省はじめ、この前も総務大臣、財務大臣もそうですけど、各国会議員の皆さんにも訴えている要望項目の1つでありまして、今おっしゃっていただいたような箇所数に対する規制がないこと、それから、上限がないために、要するに高額納税をされている方はかなり優遇されることとなりますので、これは一刻も早く改めてほしいということで要望しております。是非そういった改善がなされるように、これからもあらゆる機会を通じて働き掛けていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今と関連してなんですけれども、この前、財政局の方々が市の財政状況についての分析の公表で、ふるさと納税制度による住民税の減収が40億円に上る見込みということなんですけれども、このことに関する、また改めて市長の所感を教えてもらっていいですか。

【市長】 要は、ふるさと納税の仕組みそのもの、趣旨と、現実にふるさと納税をされている方は、趣旨とは考え方が逸脱しちゃっているなというふうに思っています。この影響が40億にもなってまいりますと、市民サービスに今後影響してくることは必至になってくる。これは自分たちにまた返ってくる話だということまでうまく伝わっていないという部分もあるのかもしれない。

そういった意味で、私も影響について市民の皆さんには呼び掛けていかなければなりません。自分だけだったら大丈夫だろうみたいな話が積み重なって40億という話ですから、ちゃんとふるさと納税の趣旨ということを踏まえて、やっていただきたいなと思っています。

【記者】 あと、ちょっとローカルな話で申し訳ないんですけれども、県内で例えば寒川町とかが寄付額の3割を超えたりするような返礼品を実際に想定されているというケースが、寒川だけでなく、いろんなところであると思うんですけれども、一般論として、県内でそういった自治体がほかにあるというのは、市長自身はどのようにお考えでしょうか。

【市長】 県内にあっても、県外であっても、私は望ましくないと思っていますので、繰り返しになりますけれども、ふるさと納税本来の趣旨に合った運用を各自治体が首長の責任のもと、やれるというのが適切だろうと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 関連で、先ほどから本来の趣旨というお話で、本来の趣旨については賛同しているけれどもということをお話しされているんですが、市長の賛同されている本来の趣旨というのはどこを指していらっしゃるんですか。

【市長】 例えば川崎市は、皆さんもそうかもしれませんけれども、川崎出身じゃない方もたくさん川崎に住まわれています。そういう意味では、自分のふるさと、育ててもらったふるさとに何か応援したいという気持ちはどこかにある方も多いと思います。厳しいところに何らかの寄付で応援したいなという、その趣旨自体は私は全く間違えていないし、それが本来のふるさと納税の趣旨だと思うので、ただ、それが今、過剰になり過ぎて、返礼品合戦になっているというのは、これは違うなど。自分のふるさとではない、お肉だとか、このお魚がとかという、そういうふうな形でやるのはふるさと納税の今申し上げている趣旨とは全く違うのではないかなと思うんですよね。

【記者】 居住地で住民税を支払って、その対価というか、その代わりに行政サービスを提供されるというのがあくまで原則で、その流れというか、これまでの経過だと、要するに地方で子供を、一番コストのかかる子育てをする地方が負担ばかり負って、そのまま都心部に出てきて、要はメリット、納税者にならないという、そういう中から多分この制度が出てきたんだろうと私は理解しているんですが、とすると、あるべき姿というのは、例えば出身地なり、育ててもらった土地に限定をつけるべきだという、先ほど箇所数、金額に上限がないということが一番の問題だというふうにおっしゃいましたけれども、例えば寄付先に制限をかけるだとか、改めるというのは、具体的にどう改めるのがよいというふうにお考えでしょうか。

【市長】 自分のふるさとだけに限るとのことだと、例えば、今、被災地で大変なところもたくさんある中で、自分のふるさとだけでというのは言い過ぎかなという部分もあるので、そこまでという思いはありませんが、ただ、第1ステップとしてこういう是正がなされてきたことは歓迎しているということです。

次に、先ほど来出ているいろんな箇所数の規制だとか、上限規制だとかというふうな金額の規制だとかいうふうなのはあってしかるべきなので、そういったところに制度改正をやってもらえるように働きかけていきたいなということですね。

【記者】 わかりました。

【幹事社】 ほか。

#### 《JR川崎駅北改札について》

【記者】 JR川崎駅の北口通路、北改札についてお伺いします。きのうで7か月が

供用開始からたったかと思えます。先日の議会でも少し出たんですけども、利用率が伸び悩んでいるようで、弊社でご担当の方に伺いましたら、約17%ぐらいと。もともと事前の計画では、市のほうでは利用率3割程度を目指しておられたと聞いておりまして、単純に考えて、約半分ちょっとぐらいの利用率になっています。アトレなどもあそこは改装したりしましたけれども、それでもなおちょっと伸び悩んでしまっているということについて、受け止めをお願いいたします。

【市長】 もう少し推移を見守りたいなというのはあります。こういう形でも、鉄道系の話って実は定着するまでに少し時間がかかるというのが、いろんなケースで見られています。例えば、新設の路線をつくったといっても、なかなかこのぐらいの期間は一定程度かかりますねというものがあるので、もう少し推移を見守りたいなと思っています。人の流れというのは、いろんな変化するので、もう少し見守りたいなという感じですかね、現時点では。

【記者】 現状、変化するにしても、当初の目標であった3割程度にはちょっと満たなかったなど、このこと自体についてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 それが期待外れだったとか、見込んでいたあれよりそれは残念だとかというところではないので、もう少し状況を見守っていきたいと思いますし、利便性はよくなっていると思うので、特に今現時点であまりコメントがなくて申し訳ないんですけども。

【記者】 あの界限はかなりラッシュ時なんか特に人が混雑しますけれども、北改札ができて、市長のご実感としては、あの辺りは変化したとは思いませんか。

【市長】 それはあると思います。あると思いますというか、確実に変化していますし、人の流れもそうですし、平日だけじゃなくて土日でも西口、東口のアクセスというのがもう1本できていることは大きいと思います。今後さらに京急線との接続というふうなポテンシャルを考えれば、今後も増えていくのではないかなと思っています。

#### 《かわさき きたテラスについて》

【記者】 ありがとうございます。

あともう1点すいません。アゼリアに昔あった「かわさき きたテラス」なんですけれども、観光案内所、あれはアゼリアから北口に持ってくることで利用者が増えていて聞いております。あれはどうして増えているとお考えでしょうか。

【市長】 少なくとも場所的にも相当前のところよりは目立ちますし、アクセスしやすいところになっていると思いますので、そういう意味では使いやすいんだろうなと

思います。機能的にも、あそこにも非常に居心地のいいといたらあれですけども、観光案内も、市民の人が観光案内を別に見るわけではないでしょうけれども、いい空間になっているんじゃないかなというふうに思いますね。1つは、何といても立地だと思いますね。

【記者】 ありがとうございます。

#### 《人権全般に関する条例について》

【記者】 先日の議会で勝又議員も質問されていたと思うんですけども、あらゆる差別を撤廃する条例についてなんですけれども、スケジュール感は今どのような感じに進んでいるかというのは今わかる範囲で教えていただけるとうれしいんですが。

【市長】 この前、議会でお話したスケジュールのあれは、今、ごめんなさい、持っていないから、不正確なことをここで言っちゃうと大変なことになっちゃうので。よろしいでしょうか。

【記者】 わかりました。

【司会】 後ほど資料、情報提供という形で。

【市長】 すいません。何かペーパーありましたっけ。

【職員】 ないです。

【幹事社】 ほか、よろしいでしょうか。

【司会】 では、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

- 
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。
  - ・《風疹の流行について②》の中で、本市の風しん対策事業での予防接種の一部助成対象者について、本市職員の発言に誤りがありました。お詫びするとともに、次のとおり訂正をさせていただきます。

「本市の風しん対策事業で予防接種の一部助成対象となる方は、川崎市に住民登録があり、本事業を利用したことの無い方のうち、「妊娠を希望する女性」、「妊婦のパートナー」、「妊娠を希望する女性のパートナー」のいずれかの方です。この助成制度を利用する場合は、まずは無料の抗体検査を受けていただき、抗体価が十分でなかった場合に予防接種の一部助成を受けることができます。」

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355